

## 第4学年 道徳科学習指導案

令和6年10月17日（木）第5校時

- 1 主題名 礼儀正しい行動を 内容項目【B 礼儀】
- 2 ねらい 礼儀に反した行動を取ると、自責の念が残るということについて話し合うことを通して、礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接し、言動に気をつけて生活しようとする態度を育てる。

教材名 「かなちゃんへの手紙」

(出典：彩の国の道徳「みんななかよし」埼玉県教育委員会)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容について

指導内容項目B－(8)は、「礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接すること。」をねらいとしている。

礼儀とは、社会生活の秩序を保つために人が守るべき行動様式である。そして礼儀正しく過ごすということは、社会生活の中で、人間関係をよりよく保つためにとっても重要である。なぜなら、挨拶や言葉遣い、所作や動作など作法として表現することが、人間関係をより豊かにし、社会生活を円滑に営めることにつながると考えるからである。人々と関わる中で、意図しないまま相手を傷つけてしまうことが少なからずある。それは、感情に流されたまま、相手の気持ちを考えずに行動や発言をしてしまったり、言葉の選び方がよくなかったりするなど、自らの負の感情をコントロールできなかったことが要因であると考えられる。相手の気持ちを考えて行動するためには、思いやりの言動が必要であることは言うまでもない。

思いやりのある言動と礼儀正しい言動の違いは、思いやりのある言動は、相手のことを思いやって行うものであること、それに対して礼儀正しい言動は、あくまでも自分がそうあるべきだと信じ、自分のために行うものであると考える。そのように考えると、教材の終盤にある「かなちゃんへの手紙」を、私が、泣きながらちぎる場面では、かなちゃんに対しての思いやりからの反省ではなく、自分が礼儀に反してかなちゃんへの手紙を書きってしまったことに対する自己反省であると考えられる。

そこで、本教材では、私の礼儀に反してしまった言動について話し合い、礼儀の大切さに気付かせる。そして、児童が自らの生活について振り返り、誰に対しても真心をもって接し、自分の言動に気を付けて生活しようとする態度を育てたいと考え本主題を設定した。

#### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

(略)

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、けんかをしてしまった友達に対して、怒った気持ちのまま書いてしまった手紙を相手の机に入れようとして悩み、書いてしまったことを後悔して、自分の言動について考え始める話である。

話し合いを、次の3つの視点から構成する。

①主人公がかなちゃんに手紙を書いたときの気持ちや、机の前でたたずむ気持ちを考える。

ここでは、相手が悪いと思って勢いで手紙を書いた気持ちと、手紙を机の中に入れてはいけないと思う気持ちの両方の気持ちの葛藤を感じ取らせる。そして失礼な手紙を書く行動を取ってしまった主人公について、話し合い、考える。

②家に帰ってかなちゃんから電話があったことを知った主人公の気持ちを考える。

ここでは、相手にも都合があったこと、自分の言い方がきつくて相手は言い出せなかったのではないかということについて話し合い、考える。またそのことから、主人公が、礼儀のない行動を取ってしまったことに気付いたことについて話し合い、考える。

③泣きながら自分の書いた手紙をちぎっている主人公の気持ちを考える。

ここでは、主人公が、自分のしてしまった行動を反省し、礼儀正しい行動について考えることについて話し合い、考える。

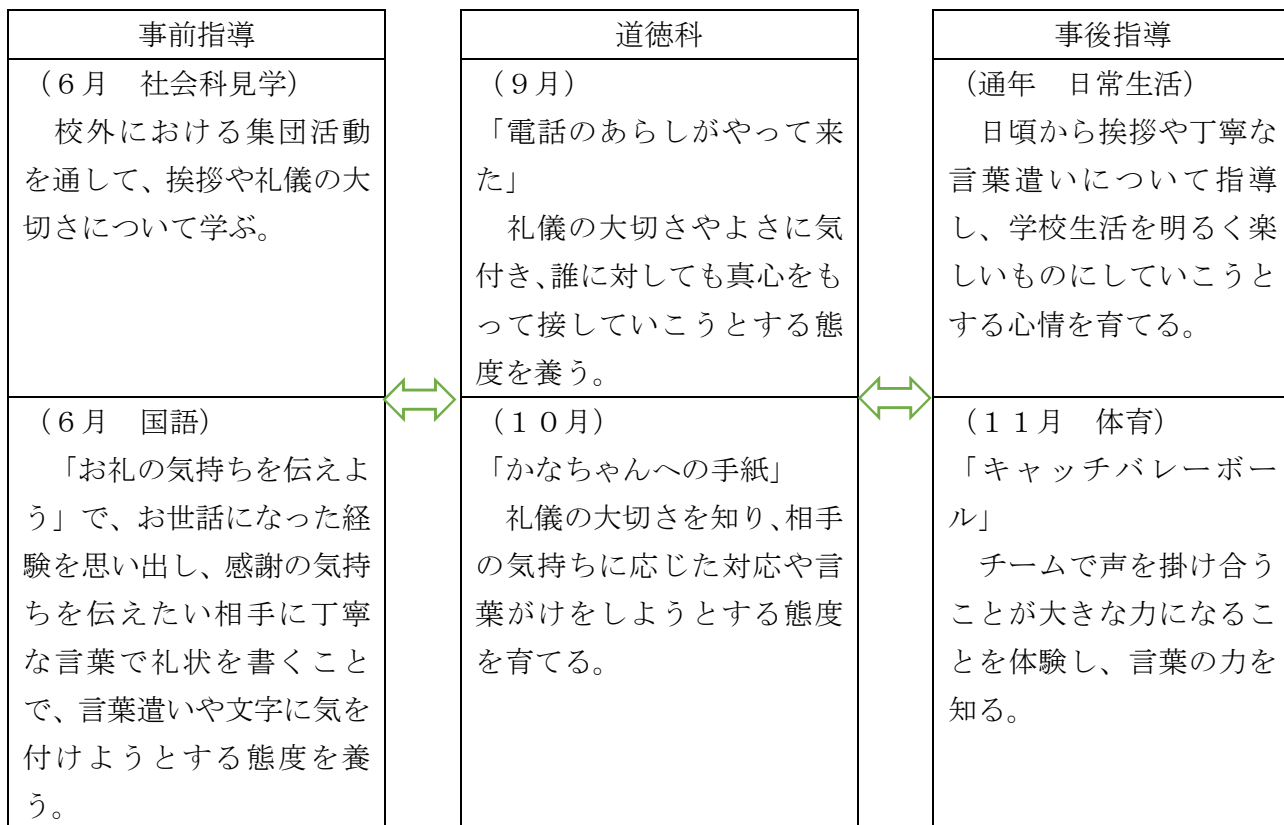
4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点☆評価の視点	時間
導入	1 失礼な態度について想起する。 ○失礼だなどと思う態度にはどんなものがありますか。  礼儀正しい行動ができていますか。	・話をしっかり聞かない。 ・嫌なことを言う。 ・無視する。	・児童の身近なことと関連させながら問題意識をもたせ、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。	2
展開	2 教材「かなちゃんへの手紙」を読み、話し合う。  ①失礼な(悪口の)手紙をもってかなちゃんの机の前に立ったわたしはどんなことを考えていたでしょう。	<怒っている> ・約束を破る、かなちゃんが悪い。 ・言い方、態度が気に食わない。 ・遊びたかったのに。	・あらすじをスライドを読み進めながら確認し、場面の状況を押さえながら発問していく。 ・「怒っている」「怒っているけど」に意見を分けて心の迷いを見えるようにする。 ・なぜ手紙を入れなかったのかについて真意を押さえる。 ・「わたし」の気持ちの葛藤につ	33

<p>展開</p>	<p>②電話があったことを聞いた「わたし」はどんなことを思っているでしょう。</p> <p>○なんと言えなかったと思いますか。</p> <p>③泣きながら手紙をちぎった「わたし」はどんなことを思っていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出て行ってしまった。</li> <li>・謝ってほしい。</li> </ul> <p>&lt;怒っているけど&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こっそり入れるのはどうなのか・・・。</li> <li>・イライラするけど、手紙を入れるのはよくない。</li> <li>・手紙に悪口を書くのはよくないかも。</li> <li>・かなちゃんが見たら悲しむだろうな。</li> <li>・自分がされたらいやだな。</li> <li>・自分の行動は間違っている。</li> <li>・失礼な行動だ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そんな都合があったなんて知らなかった。</li> <li>・なんで言ってくれなかったの。</li> <li>・あの時、かなちゃんに聞いていれば。</li> <li>・イライラしていて言い出せなかった。</li> <li>・自分の言い方がきつかった。</li> <li>・遊べないからといって自分勝手に怒ってしまった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かなちゃん、ごめんね。</li> <li>・理由を聞けばよかった。</li> <li>・すぐ怒って、かなちゃんの気持ちを考えていなかった。</li> <li>・ひどいことをするところだった。</li> <li>・手紙に書いたことを取</li> </ul>	<p>いて考え、共感させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア学習を通して、お互いの感じ方や考え方を伝え合い、「わたし」の気持ちや「かなちゃん」に対する態度について視野を広げる助けとする。</li> </ul> <p>☆友達の考えをしっかりと聞き、物事を多面的・多角的に考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怒っていた時には、かなちゃんの気持ちを考えず、礼儀のない振る舞いになっていた「わたし」の言動に気付かせる。</li> <li>・「なんで言ってくれなかったの。」ということから、なんと言えなかったのかを考えさせ、自分が怒っていたから言えなかったのではないかということを押さえる。</li> <li>・自分の言動を深く後悔する「わたし」の気持ちに寄り添い、人として自分のしようとしてしまったことは間違っていたということに気付かせる。</li> <li>・礼儀に反した行動をしたことに気づき、礼儀正しい行動に</li> </ul>	
-----------	--	--	--	--

		<p>り消したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よく考えて行動するべきだった。</li> <li>・そんなことをしてしまって恥ずかしい。</li> </ul>	<p>ついて考える「わたし」の気持ちに迫る。</p>	
終末	<p>3 自己を見つめ生き方について考える。</p> <p>○礼儀正しい行動ができていますか。</p> <p>○何を大切にしていきたいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを考えたい。</li> <li>・言葉遣いに気をつけていきたい。</li> <li>・自分のことだけ考えて行動しないようにしたい。</li> <li>・すぐには変わらないかもしれないけどこれからは言葉や行動に気をつけたい。</li> <li>・よく考えて言葉を言うようにしたい。</li> <li>・けんかをしていらいらしても、落ち着いて考えて行動するようになりたい。</li> <li>・自分には難しいことかもしれないけど考えていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の教材や自分の生活経験から課題について考えたことを書くように助言する。</li> <li>・自分の生活を振り返り、礼儀正しい行動ができているかを問い、いつでも、誰にでも同じよう行動することの難しさを理解しながらも、非常に大切であることに気付かせる。</li> </ul> <p>☆礼儀の大切さについて、自分との関わりの中で考えている。</p>	10

5 他の教育活動との関連



家庭・地域社会との連携
授業参観で道徳の授業を行ったり、授業の様子を学級だよりや教室掲示で伝えたりする機会をもつことで、家庭で朝の挨拶や言葉遣いに気を付けてもらう。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・ 友達の考えをしっかりと聞き、物事を多面的・多角的に考えている。
- ・ 自分の考えを書くことで、自己の生き方についての考えを深めている。

【道徳的諸価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・ 礼儀の大切さについて、自分との関わりの中で考えている。

7 板書計画

